

こちら特報部

立ち直るための刑罰とは
元受刑者の声から考える

刑務所内でも
社会とつながりを



運営方針などを説明するマザーハウスの五十嵐弘志理事長

孤立、生活苦…高い「再入率」

入れたてのコーヒーの香りが漂う。東京都墨田区のNPO法人「マザーハウス」。事務所で昨年九月にオープンした「マリア・カフェ」は、アフリカ・ルワンダ産コーヒー豆のホットコーヒーを一杯百円で販売するスタッフは、刑務所を出所した元受刑者たちだ。

刑罰では、身柄を拘束する主な刑罰に「懲役」と「禁錮」を定めている。違いは懲役刑が「所定の作業を行わせる」と作業を強制していること。禁錮刑は受刑者の希望に委ねている。

男性も「社会復帰に役立った」とは正直言っていない。仮釈放が欲しかったから、裏面に作業した。時間が早く過ぎればよいと思っていた」と振り返る。

多くの受刑者は、刑務所から出たら頼る人も場所がない。社会とのつながりが必要なんです」と話す。

犯罪者の刑罰を大きく変える議論が、法制審議会(法相の諮問機関)で進んでいる。昨年、これまでの懲役刑と禁錮刑の区別をなくして「新自由刑」を設け、受刑者の改善指導や教育を義務付ける案が示された。刑務所を出て再び犯罪をする人が少なくないなか、立ち直るための刑罰はどうあるべきなのか。元受刑者の声を通して考えた。

感じている。これまで二回、計五年服役した。刑務所では清掃、野菜栽培などの作業をした。これが「懲役」だ。

「二〇一八年の犯罪白書によると、出所した人が刑務所に戻って来る「再入率」が、五年以内で38%、十年以内で46%だった。かなり多くの人が再び刑務所に戻ってくるのが現実だ。

二度目の逮捕後、服役中に聖書やマザー・テレサに関する本などを熱心に読んで、刑務所を訪れる教誨師に教えを請い、神父やシスターと文通した。出所後にキリスト教カトリックの洗礼を受けた。二年にマザーハウスを設立し、一年にNPOの認可を得た。

政府が米軍空母艦載機の陸上空母島島の馬毛島。ここには島固有の自然から「宝の島」とも称される馬毛島の数は近年の乱開発で減っている。告する。



馬毛島中央部の草原で撮影されたマゲシカの子ども=1998年 立沢史郎北海道大大学院助教



調査当初、八十頭程度だった推定生息数は〇〇年夏、過去最高の約五百七十頭に。それ以降、島の大半を保有する民間会社に立ち入り拒まれ、上陸調査ができていない。代わりに数年一度、ヘリコプターで上空から調べている。

生息数 11年で半分に以下に

「できる限り開発前の環境に回復させ、行政による環境調査が必要。子どもたちがキャンプに入れば、馬毛島は自然と文化の宝庫、島全体が野外博物館となる。国民の財産としてどう活用するか地元の声聞いて議論してほしい」と願う。

Market data table with columns for '野菜' (Vegetables), '畜産' (Livestock), and '水産' (Aquatic products). Includes prices for various items like carrots, onions, and fish.

「管理組合役員の義務」を認識していますか? 分譲マンション管理組合の理事長は大切な仕事は組合の公益を重視した経営感覚です。大規模修繕工事の優先は十分ですか。工事費・管理委託料を見直す、比べる... マンション管理会社「合人社」は提案します。 www.gojin.co.jp

内容の凄さ実感を! 1本50ml 1本630円(税込) 30本通常価格18,900円(税込) 11た 読何明飲おそ10記